

エナガ

Aegithalos caudatus

エナガ科・留鳥

名前の由来

体をひしゃくに、長い尾をひしゃくの柄(え)にたとえてつけた名。北海道のエナガは亜種(亜種とは、同じ種が地理的に隔離され、独自の分化をとげ、形態的に違いがあるもの)シマエナガ(島えなが)とも呼ばれる。漢字名：柄長



エナガ (シマエナガ)

特定種

該当なし

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)13.5cm。体は小さく、シジュウカラより小さい。

白い頭部と黒く長い尾が目立つ。背は黒と紅紫色。下面是白く、下腹が紅紫色。

本州以南のエナガには黒い過眼線(目の上を通る線)があるが、北海道に棲むエナガ(シマエナガ)にはなく、白い顔をしている(ただし、シマエナガの幼鳥には紅の混ざった

黒い過眼線がある)。

声：「ツィーチリリリリ」と高い声、「ジュリ、ジュリ、ジュリ」と濁った声、あわせて「チーチー、ジュリ、ジュリ」と細く小さな声で鳴く。そのほか「チーチーチー」とか「チャッ」という声も出す。特別なさえずりはないようだという。



前から見たエナガ



エナガの背



エナガの幼鳥。特に右のものは顔が黒く見えるほど過眼線がくっきりしている

生息環境・分布

低地や低山のいろいろな樹林に住む。二次林に多い。北海道ではハルニレ・ヤチダモなどの低地の落葉広葉樹林で見られる。

分布：ユーラシア大陸の中緯度地方に分布し、乾燥高地やヒマラヤ山脈にはいない。

北海道、本州、四国、九州、対馬、佐渡島などに留鳥とし

て生息する。北海道のものはシマエナガと呼ばれる亜種である(亜種とは、同じ種が地理的に隔離されることによって独自の分化をとげ、形態的に変化が確認できるもの)。

北海道では留鳥で低山の林に生息し、繁殖する。

十勝では留鳥で、平野部から山地の森林に普通に生息、繁殖する。

食性・他生物との関わり

樹木の上・中層部や藪の小枝など、葉が茂るところで虫や虫の卵を食べる。主な食物はアブラムシ。果実や樹液もよく食べる。

小枝にしっかり足でつかまり葉の表面からついばむ。斜め

上に伸びる小枝によく逆さになってとまり、足を交互に変えながら体を左右に振り、巧みに上の方へはねながら餌を探す。(→興味深い話の項参照)

捕食者は猛禽類など。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期	[Green bar indicating presence from Jan to Dec]											
繁殖	[Pink bar indicating breeding from Apr to Oct]											

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葦原・樹林)
鳥類
ワシタカ

繁殖生態

繁殖期は4～6月、一夫一妻で繁殖する。

大枝の又、あるいは小枝やつるなどで囲まれかごのようになった場所に巣を作る。作る場所をオスが紹介し、メスが決定するのだという。巣作りはオスメス共同で行い、木の枝にコケ、クモの巣、羽毛などで袋形の巣を作る。

7～12個産卵し、日中はメスのみが卵を抱き、夜はオスメス両方が巣にはいって抱卵する。13～15日でヒナがかえる。ヒナはオスメス共同で育て、14～17日でヒナが巣立つ。(→興味深い話の項参照)



巣のヒナに餌を運ぶエナガ

興味深い話

■標識調査で、7年2ヶ月の生存が確認されている。

■つがい以外の個体がヘルパーとして抱卵や育雛に参加することがある。(→繁殖生態の項参照)

■小枝から逆さにぶら下がって虫を捕ることがあるが、長い尾はこのようなときにバランスをとるのに役立っていると考えられている。(→食性・他生物との関わりの項参照)

■強風に激しく揺れる小枝でも、小さい虫や虫の卵をうまくついでることができるという。(→食性・他生物との関わりの項参照)

■片足で小枝につり下がり、もう一方の足指で青虫などを握り、くちばしで虫って食うこともできるという。(→食性・他生物との関わりの項参照)

■冬は10(3～20)羽くらいの群れで過ごし、ねぐらでは同じ枝に串団子のようにくっついて並ぶ。枝につく際初めの2羽の間に次々と割り込んでいくため、初めの2羽が列の両端になっているという。

■巣立ちしたばかりのヒナも同じ枝に「串団子」になっているという。

■繁殖後、家族群が集合して合同群を作り、10～11月頃に冬の群れごとのなわばりを作る。余分の個体は群れでなわばりから立ち去るという。

■冬の群れなわばりの広さは0.3km²くらい。オスが共同して守られるという。繁殖期のつがいは群れのなわばりからは出ないという。



頭が真っ白で実にかわいい“シマエナガ(北海道のエナガ)”

配慮事項

落葉広葉樹林が大事である。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀焔治、北海道新聞社 1997
「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987
「鳥のおもしろ私生活」ピッキオ 編著、主婦と生活社 1997

中村登流 (1969) エナガの個体群の行動圏構造。I 冬季群の行動圏と群れテリトリー。山階鳥研報、5 : 433-461.

中村登流 (1970) 日本におけるカラ類の群衆構造の研究。II 摂食場所、食物の季節的変動および生態的分離。山階鳥研報、6 : 141-169.

中村登流 (1978) 日本におけるカラ類の群衆構造の研究。IV くちばしの使用法と其の使用空間による生態的分離。山階鳥研報、10 : 94-118.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(鳥辺)
鳥類

(葎原樹林)
鳥類